がん検診を受ける方へ　一度お読みください

◇検診のメリット：早期発見・早期治療

がん検診は自覚症状がない方を対象にしているため、発見されるがんは、早期がんが多いです。
早期がんは治る可能性が非常に高く、しかも簡単な治療で済みます。
がん検診では、がんになる前の病変が発見されることもあります。ポリープ（大腸腺腫）等の前がん病変は、それを治療することでがんになることを防ぐことができます。

◇検診のデメリット：偽陰性・偽陽性

「偽陰性」とは、がんを見逃してしまうことです。がんが見つけにくい場所や形をしている場合には発見できないことがあり、検査の精度は100％ではありません。
「偽陽性」とは、検診でがんの疑いと判定され精密検査を行っても、がんがない状態を言います。
精密検査が必要となるのは、がんの疑いを除くためと、確かめるための2つの意味があります。
精密検査が必要という結果が出たら、必ず精密検査を受けましょう。

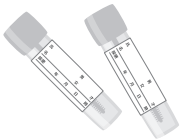
大腸がん検診について

大腸がんは日本人で1番多いがん

食生活の欧米化や高齢化により男女共に急増中のがんです。
日本人ではS状結腸と直腸が、がんのできやすいところです。
がん検診によって早期に発見すれば9割以上の人が治ります。
自覚症状のある方は、すぐに医療機関で診察を受けましょう。

●検診項目：問診・便潜血検査

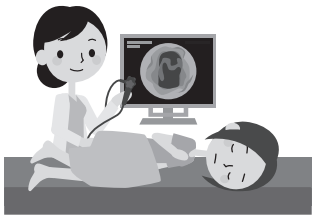
便潜血検査では、便に混じる血液の有無を調べます。大腸がんやポリープなどがあると、便が腸を移動する時に血液がつくことがあります。
※ただし、便潜血検査では、出血している原因や場所などはわかりません。
出血の原因をはっきりさせるために、精密検査のご案内をします。



◆精密検査が必要という結果が出たら、自覚症状がなくても必ず精密検査を受けましょう。
★一年以内に全大腸内視鏡検査（大腸カメラ）を受けた方は、この検査を受ける必要はありません。

●精密検査方法：医師と相談のうえ、下記のいずれかの検査を実施します。

①全大腸内視鏡検査
検査前に下剤等で腸内をきれいにして、肛門から内視鏡を入れ、大腸に異常がないか観察します。大腸の中の小さな病変を見つけることができます。
その際、細胞を採取して、それが悪性かどうか診断することができます。



②注腸エックス線検査＋S状結腸内視鏡検査（全内視鏡検査が困難な場合）
肛門からバリウムと空気を入れて、大腸の輪郭をエックス線で撮影し、見えにくい部分を補うためS状結腸までを内視鏡で見て、がんやポリープがないか観察します。

※精密検査の結果は医療機関・市で保管し公衆衛生の向上のために統計処理やそれに関わる報告等に利用する場合がありますのでご了承ください。

お問い合わせ先　藤枝市健康推進課（藤枝市保健センター）
●TEL：645−1111　●FAX：645−2122　●Eメール：hokencenter@city.fujieda.shizuoka.jp

裏面あり

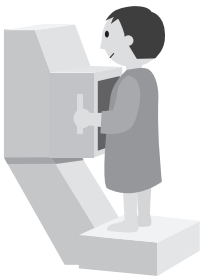
肺がん検診について

肺がんは日本人のがん死亡数第1位!

肺がんは、死亡数が男女合わせていちばん多いがんです。
初期には自覚症状がほとんどないのが肺がんの怖さです。
発症の最大の原因は「たばこ」。喫煙年数や本数が多いほど、リスクが高まります。
また、たばこを吸わない人でも、受動喫煙によって肺がんのリスクが高まります。

早期に発見できれば生存率が高いがんです。
自覚症状のある方は、すぐに医療機関で診察を受けましょう。

●検診項目：問診・胸部エックス線検査・喀痰細胞診

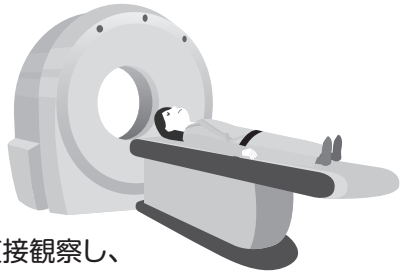


胸部エックス線検査：主に腺がんの発見に適しています。
その他の様々な疾患も発見することが可能です。

喀痰細胞診（かくたん）：50歳以上で胸部エックス線検査を受けた喫煙指数（1日本数×年数）が600以上のうち、希望者が対象です。
痰を採取し、はがれ落ちた肺がんの細胞が混じっているか顕微鏡で調べます。気管や太い気管支にできるがんの発見に適しています。

◆精密検査が必要という結果がでたら、自覚症状がなくても必ず精密検査を受けましょう。

●精密検査方法（主な検査方法）



①胸部CT検査

CTとはコンピューター断層撮影のことで、体内を輪切り状態にしてエックス線撮影します。胸部エックス線検査よりも小さな陰影を見つけることができます。
病変が疑われた部位をさらに詳しく撮影して検査を行います。

②気管支鏡検査

口または鼻から気管支に機器（気管支鏡）を挿入して、病変が疑われた部位を直接観察し、組織や細胞を採取する検査です。その際、採った組織や細胞が悪性かどうかを診断することがあります。

※精密検査の結果は医療機関・市で保管し公衆衛生の向上のために統計処理やそれに関わる報告等に利用する場合がありますのでご了承ください。

前立腺がん検診について

対象は50歳以上の男性。検査項目は血液検査（PSA検査）

PSA検査：前立腺特異抗体（PSA）の検査

・既に専門医で前立腺がんや前立腺疾患で受診している人は、検査を受ける必要がありません。自覚症状のある人は、受診をしてください。

・国の指針※1では、がんの死亡率を減少させるために有効ながん検診として、胃・肺・大腸・子宮頸部・乳がん検診を対策型検診として位置づけています。前立腺がん検診で発見されるがんは、進行が遅く寿命に影響しないがんが多い※2ことから、国の指針には位置づけられていません。一方、泌尿器科学会のガイドライン※3では、PSA検査を推奨しており、国でもがん検診の有効性について議論※4がなされているところです。受診を希望する人は、検診のメリット・デメリットがあることを踏まえ、主治医ともご相談の上、受診してください。

※1　厚生労働省「がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針」　※2　厚生労働省「有効性評価に基づく前立腺がん検診ガイドライン」
※3　日本泌尿器科学会「前立腺がん検診ガイドライン」　※4　厚生労働省「がん検診のあり方に関する検討会」